

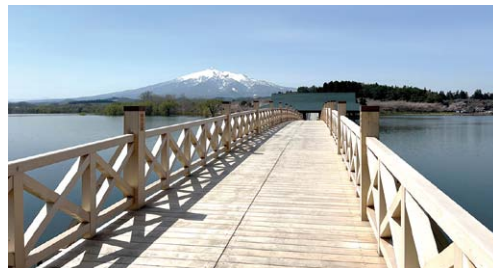
5 TOPICS



(1) 日本一長い木造三連太鼓橋「鶴の舞橋」の大改修工事が完了しました

鶴の舞橋は、青森県北津軽郡鶴田町にある堤長約4.2km、貯水量1,100万トン^{まわりげき}を有する県内最大の農業用ため池「廻堰大溜池」の管理橋及び親水施設で、平成6年に県営つがる富士見地区水環境整備事業により整備されました。また、全長約300mの木橋であり、三連太鼓橋としては日本一長い橋であるほか、樹齢150年以上の青森県産ヒバが使用されており、地域住民だけではなく、観光客にも親しまれてきました。

本橋は、供用開始から約30年経過し、老朽化による施設機能の低下が見られ、安全性の確保が懸念されたことから、令和4年度から大規模改修工事を実施しており、この春、工事の完了となりました。



改修された「鶴の舞橋」



鶴の舞橋改修工事完工式（R8.4.17）

～工事完了までのプロセス～

◆橋の改修に関する技術検討委員会の設置

木橋改修における技術資料や施工事例は少ないことから、令和元年度に有識者等で構成する「鶴の舞橋改修に関する技術検討委員会」を設立し、委員等からの様々な意見を改修計画に取り入れながら設計・施工を実施しました。



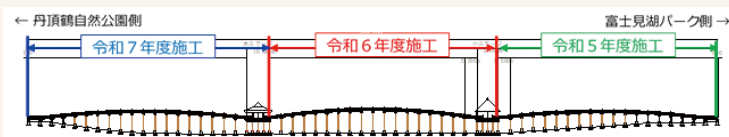
技術検討委員会の様子

◆工事の実施

令和4年度に木材を調達・加工し、令和5年度～令和7年度の3年かけて木橋本体の改修工事を実施しました。工事可能期間が貯水期間外(9月～12月)の約4ヶ月間に限られていることから、部材のユニット化による工期短縮や試験施工による施工課題の確認など工程管理に細心の注意を払いながら工事を実施しました。



部材のユニット化



「鶴の舞橋」について、本県の宮下知事がYouTubeで紹介していますので、ご覧ください。

動画はこちらから



(2) 中山間地域におけるスマート農業技術の導入を推進しています

青森県の中山間地域は農家数、耕地面積、農業産出額などで4割を占め、本県の農業において重要な位置付けとなっています。一方で、傾斜地が多く、ほ場は小区画で分散しているなど、地形条件の不利性に加え、平地より農業従事者の減少や高齢化の進行が早いため、農作業の更なる省力化と効率化が重要な課題となっており、その対応策の1つにスマート農業の導入が挙げられます。

そこで、中山間地域の小規模ほ場でも活用できるスマート農業の実証試験を行い、本地域で活用できるスマート農業と必要な基盤整備をまとめたパンフレットを作成しました。今後も中山間地域の農業が継続され、さらには担い手の確保につながるよう取組を推進していきます。

～パンフレットの概要～

◆中山間地域で活用できるスマート農業

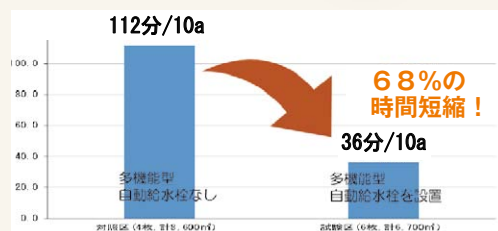
①水管理の省力化（自動給水栓・水位センサ）

これまで1枚ずつの水管理が必要だった田越かんがい水田について、最上段に自動給水栓、最下段に水位計を設置することで、複数の水田の水管理が可能となります。



②草刈作業の省力化（ラジコン草刈機等）

ラジコン草刈機で法面の草刈りを行う場合は、傾斜を30度以下にすることで安全で効率的な作業を行うことができます。



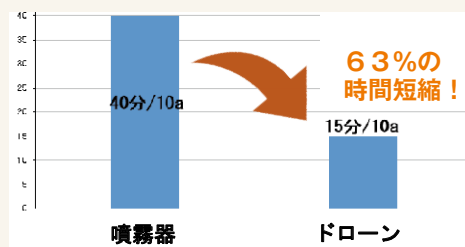
③薬剤散布の省力化（ドローン）

幅2m程度の作業道を整備することで車での資材運搬が可能となるほか、ドローンの離着陸等スペースを整備することで、バッテリー交換などの移動を最小限にすることができます。



④鳥獣害対策の省力化（カメラ・捕獲通知器）

監視カメラを設置して農作業前に農地周辺の確認を行ったり、わなに捕獲通知機器を設置することで、必要な場所に限定した見回りが可能となるなど、安全で効率的な対策を行うことができます。



◆スマート農業を導入するための中山間地域の基盤整備

導入する機器に合わせた基盤整備を行うことで、中山間地域でもスマート農業技術の導入効果を十分に発揮することができるようになります。

実証試験により確認したスマート農業機器を効果的に利用するために必要な基盤整備内容について、パンフレットで詳しくまとめているので、ぜひご覧ください。

パンフレットは
こちらから

